

「運命の一球」

上野市Jネット事務局 関川正樹

私事になりますが、長男は今高校二年、野球に「バカ」になって毎日真つ黒になって帰宅しています。毎日夜九時一〇時の部活で、雑巾のようにクタクタで帰る姿を見ていると、親としては学業への心配はあるものの、本人が「今」打ち込めるものを持つ彼は、かけがえのない宝物を探しているのだと羨ましくも思われます。

息子の野球に触発され、最近読みなおしたのが、山際淳司の野球に関するノンフィクション。「スローカーブをもう一度」八月のカクテル光線「江夏の21球」などなど。

——たった「一球」が人生を変えてしまうことなんてありうるだろうか。「一瞬」といいかえてもいい。

それは真夏のできごとだった。——

などの文章を思い浮かべながら、練習試合の応援に出かけている今日此の頃です。

（閑話休題）

さて、Jネットは平成九年からの七回目の総会を五月二十四日東京市ヶ谷で開催しました。大勢の会員の皆さんにお集まり頂きありがとうございます。上越からは部長以下六名が参加させていただきました。

お集まり頂いた会員の皆さんは、ふるさとへの熱い想いを胸に様々な分野で活躍しておられる方々で、お話を伺うと私共職員以上に上越を愛し、熟知し、また関心を持っておられます。

Jネットの目的の中に、会員の親睦の

ほか、ふるさと上越の応援団として上越市を支えていくことが謳われています。会員の皆さんには今後とも、上越が良くなると思われれることで、感じていること、考えていること、何でも事務局にお寄せ下さるようお願いいたします。

Jネットの会員は全国に広がっていますが、残念ながら総会・懇親会にご出席頂ける方は関東近圏の方々です。全国の会員の皆さんが一堂に会すれば楽しいだろうと思うのですが、物理的に困難です。せめて事務局として、月々の「たより」や年二回の「会報」の充実を図り、皆さんとの絆を強めて参りたいと存じます。

冒頭、たった「一球」が云々と書きましたが、会員の皆さんのJネットとの関わりが、運命の「一球」となれるよう、入会して良かったと思っていただけだろう、事務局として努力してまいります。今後ともよろしく願います。

